



RD3 02.7.1.

平成十二年十二月、先代教会長である夫がお国替えになり、後継教会長として御用させて頂きましてより、はや一年半が経ちました。主人は取次者として、人の助かりを願ひ・御祈念することはもとより、肉体的に痛み苦しむ人を助けるのも、神様から与えられた自分の御用であるとの信念のもと、鍼灸師としても人が助かる喜びを日々御礼申しておりました。

「人間は生れる時に証文を書いて来ているようなものである」と教祖様の御理解にありますように、人は善きにつけ悪しきにつけ、それぞれに持つて生れた運命があるのかもしれない。

生も死も神様の思召しであり、人間の力では左右し得ないのだ。という事に気付き、主人が教会の御用に心を残し、もつともつと御用したかったであろうことを思うとき、私は悲しみの中から「主人に変わって御用させて頂き下さい」と祈らず

にはおられませんでした。

「全てに責任を持つということ、御取次の業は、決まって生易しいものではない」と自分では分かっているつもりでも、現実には思うに任せないことばかり起ります。教導でき得ない不徳な自分を

『神様・霊様に守られて...』



大磯教会 菅原ミノリ

お詫びし、日々の御無礼をお詫びしながら、その重責を痛感しております。

今、教会長として御用できるのも、神様・霊様にお見守り頂きながら、親先生に祈られ、御教導・御取次頂きましたおかげであり、諸先生方の御教導、信奉者の皆様方のお祈り添えを頂いての私です。至らぬ私ですが、神様の御用にお使い下

さることをありがたく思っております。

私は三十五歳の時に実姉を亡くしました。その時ある事柄から霊神は生き続けているということを実感しました。何事も神様・霊様にお縋りしながらさせて頂くという心ですれば、亡き主人が霊神様として働いて下さり、また神様がつきま

とってくださります。
大磯教会は来る十一月十四日、開教四十年記念祭を迎えます。「祈りてみかけあるもなきも、わが心なり」の御理解を頂き、神様・霊様のお喜びくださる記念祭になる様、真心を捧げるお祭りを仕えさせて頂きたい。全てにおいて神様・霊様のお見守りとお力を頂いて御用に使うて頂きたいと願っております。

連合会だよりの新名称が決定しました。新名称は『かりん』とさせて頂いた頂きました。かは神奈川のか、りんは山梨の梨を音読みにしました。また、「ご応募いただきました中から、「やまがみ通信」をお知らせ欄、「ながれ」をあとがき欄のタイトルとして使わせていただきます。

「ご応募ありがとうございました。」
次号、新キヤラクター「かりんちゃん」が登場！...するかも。お楽しみに！

「講話と夕食の会」vol.1

4.20. SAT 15~18.30

これまでの堅苦しいイメージを取り払い、気軽な触れ合いの場を提供することを願いとして始まったこの会。第1回目の今回は、講師に元NHKアナウンサーの高橋美紀子さんを迎えて、『人生の達人たちとの出会いーラジオ深夜便を通して』というタイトルでお話を伺いました。

高橋さんは、1990年に始まったNHK第一放送の『ラジオ深夜便』を週1回担当し、その中で「中年からの挑戦」というテーマのコーナーを設けました。今会では、その時に出会った23人（60代~80代）の方の生き方を紹介してくださいました。

お話では、23人中13人がボランティア活動に尽力している…や、定年後に始めた活動、高齢になって新たな目標を持って生き生きと活動する婦人…などなど。自分だけのために生きる人生から、少しでも人に喜んでもらえることをする生き方に転換した人たちの様々な人生が語られました。

講話終了後は、講師と共に夕食会が催され盛会に終わりました。参加者は25名（夕食会は17名）

一章

PLACE：鶴見教会

しゅーかい

あ・ら・かると

今号は、3つの集会の様子を紹介します。



←講演中の
高橋美紀子さん

講話後の
↓ 夕食会の様子



「婦人のつどい」

「韓国料理を作って食べよう」

4.27. SAT 11~16



←講師の金さん
日本語ウマいっすよ！

さすが、
オネエさま方！
↓もう出来上がりです。

近くて遠い国といわれる韓国。

でも最近は、W杯の共催…それより何より焼肉に始まる韓国料理の日本の食卓への浸透など、その身近さは皆さんも感じているところでしょう！？

そこで、金光教東京寮におられる韓国人留学生金潤淑（キムコンスク）さんを講師に迎えて、家庭料理であるチジミとビビンバ、そして祖先のお祭りの時に振舞われる料理、ジョンを教えてもらっちゃいました。

当日は、ベテラン主婦の方々の参加が多かったこともあって、調理は賑やかに進みました。

会食では、韓国流に茶碗などの食器を手を持たずに食べるなどの文化の違いにも触れ、金さんへの質問も尽きませんでした。

参加者は18名 一光



PLACE：神奈川教会

「親子集会」—そうだ地引綱しよう—

6.16. SUN 10.30~14.30



←網入れて
来まーッス!



↑0歳から92歳まで、人生いろいろ



結構重いん→
だよねえ

やって来ました西湘二宮は梅沢海岸!今日は涼しげで地引綱日和!!でも生ビールにはチョットなあ…。

去年は台風吹き飛ばされたこの集会も、今年はお天気のご都合を頂いて、皆さん楽しげです。

「今、潮がいいからやっちゃおう」という親爺さんの声に促されて、ヤッセ、コラセと引いてみると、これまたアジやコノシロがいっぱい!魚が飛び跳ねる度に、あっちもこっちも歓声の嵐でした。こういう嵐ならいつでも大歓迎なんですけどねえ…!?

その後は昼食。シラスのかき揚げにバーベキュー、もちろん魚はお刺身で…。

さあ腹が膨れたところで今度は宝探し。最後は海岸のゴミ拾いをして、スッキリ・サッパリとしたところでお開きとなりました。

また今度もみんなで来てね。参加者は68名

—こ— PLACE: 二宮・梅沢海岸

ハワイの暮らし & 日本の暮らし

「7月4日に生まれて」という映画があったが、7月4日はアメリカ合衆国の独立記念日である。ハワイは本土から遠く、アジアからの移民が多いことから、アメリカであることをあまり強く意識しない。しかし、この日はアメリカ色の日である。

ローカルの人たちの憩いの場であるアラモアナビーチでは、お祝いの花火が華々しく打ち上げられる。人々は早朝からテントとバーベキューセットを持って公園内に陣取り、夜のその瞬間まで家族や友人と楽しく過ごす。この花火大会は大変な人気なので、夕方から出かけていっても、アラモアナショッピングセンターの巨大な駐車場までが満車である。朝から公園でのんびり過ごすのが賢明なのだ。

そしていよいよ日が暮れ、ポッポーンと威勢のいい音が響くと大歓声が沸き起こり、次から次へと、赤と青の星条旗の色を基調とした、いかにもアメリカらしい花火が広がっていく。スマイルフェイス、「USA」の文字、そして星条旗…。

アメリカ人は星条旗が本当に好きだ。帽子にシャツにバッグにステッカー等、普段でも当たり前のように身に付けていたりする。学校では毎朝国歌等が流れる中、星条旗が掲揚され、子供たちも先生も直立し胸に手を当て旗に向かってアメリカを讃える。この徹底ぶりなら、星条旗好きが生まれるのも納得である。様々な人種を抱え込んでいるアメリカは、星条旗の下に国家意識を統一してきたのであろう。

アメリカは、昨年来ますます右傾化が加速し、正義の名の下に戦争を繰り広げている。あのハワイの澄んだ夜空から、人を殺す「正義」ではなく、真の愛と平和を願っての星条旗色の花火が、世界に向けて美しく夜空を彩ってほしいと願わずにはいられない。

—浩—

☆第20回金光教東京平和集会

テーマ — 平和実践 —

*日時：7月21日(日) 11:50~15:30

*場所：千鳥ヶ淵戦没者墓苑～

日本教育会館一ツ橋ホール

①折りのつどい 11:50~12:30

千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて

②公開講演会 14:00~15:30

プラティープ・ウンソクム 奈氏

『地球平和への大志』

-スラムの子供たちと共に歩いて-

日本教育会館一ツ橋ホールにて

③子どものひろば 13:45~15:30

異文化体験空間-カンボジア探検隊-

日本教育会館一ツ橋ホールにて

(13:30集合)

東京センターから

☆公開講座 こんこうセミナー

『現代社会の危機と金光教』

— 金光大神の出現の意味について —

*講師：荒木美智雄氏

(筑波大学名誉教授)

*日時：第1回— 7月6日(土)

第2回— 9月7日(土)

第3回— 10月5日(土)

第4回— 11月2日(土)

14:00~16:00

*参加費— 300円

*場所— 金光教東京センタービル

詳しくは、教会のチラシか…

金光教東京センター

03-3818-6321まで

やまがみ通信

☆第2回 講話と夕食の会

7月6日(土) 15:00~18:30

講師：膳師豊氏

(映像製作者・品川教会)

『メディアづくりと信心づくり』

会費：1500円

会場：武蔵小杉教会 044-722-0417

*JR南武線・東急東横線武蔵小杉駅徒歩15分

連合会から

☆第6回 金光教を考える会

7月20日(土) 10:30~16:00

テーマ 『金光教の活性化』

会場：神奈川教会 045-441-0557

*京浜急行神奈川駅から徒歩5分

*参加対象は信徒のみです。

皆さん奮ってご参加ください!

〈お・が・ね〉

サッカー・ワールドカップ

武蔵小杉教会 須賀院明徳

韓国と日本が過去のしがらみを取り除き、手を取り合って共同開催の運びとなった今大会。連日ソウル・釜山・横浜・さいたま・札幌等で熱戦が繰り広げられていることは大変喜ばしいことである。

そして、苦心してチケットを求め観戦に行く人も、あるいはテレビで釘付けになり、一試合一試合を手に汗握りながら観戦する人も、それぞれが心一つに、この一時期を有意義に過ごそうとしていることは有り難いことである。

しかしその一方で、大会を成功させようと賢明に裏方に徹しておられる方々の苦勞を思うとき、このスポーツの祭典を通して、激動する世界情勢が少しずつ融和の方向へと向かわれていくことを切願せずにはおれない。

これを機に、あいよかけよの生活精神を世に轟かせよう。

金光教 神奈川 山梨教会連合会

発行者 木本紀義

編集責任者 横山光雄

横須賀市深田台三十二番地

金光教横須賀教会内